Jazz Interview Vol.35

ニューヨークで活躍する注目のベースマン！

デズロン・ダグラス【Dezron Douglas】

本誌「Vol.34」の≪ Bassman Now! ≫にも登場した米国コネチカット州ハートフォード生まれで、現在 32 歳のベースマン。この 11 月に福岡出身のギタリスト中川正浩のトリオのメンバーとして、福岡でコンサートを行ったばかりだ。これまで来日の機会も多く、2011 年の東日本大震災の後には『がんばれ日本』というアルバムをチャリティ基金としてリリースする等、親日家でもある。これまで 4 枚のリーダー・アルバム（右頁下参照）をリリースし、現在ニューヨークを拠点に自身のグループの他、サイラス・チェスナット・トリオ等でも活躍中。次世代のシーンを担う注目のベースマン、デズロン・ダグラスに話を聞いた。

【2013 年 11 月　取材・文：加瀬正之】

♪ 11 月に日本で行ったライヴについて聞かせて下さい。

福岡出身の才能あるギタリスト＝マサ（中川正浩）のトリオで、タード・ハマー（p）と 3 人で福岡 5 か所でコンサートが行なわれたんだ。マサとは以前ニューヨークで一度会っていて、今回タードを通じて再会した。マサには本当に感銘を受けて、彼の故郷福岡で一緒に演奏することを楽しみにしていたんだよ。

♪ 14 歳からプロとして活動を始めたそうですが、最初からジャズ・バンドで演奏していたのですか？

いや、最初に参加したバンドは父のゴスペル・グループで兄弟と一緒に参加したんだ。そこでベースの役割についてしっかりと学ぶことができたよ。父は自分にとって最初の音楽の先生でもあり、今でも価値のあるレッスンを施してくれているんだ。

♪ 小さい頃はどんな音楽を聴いていたのですか？

レゲエ、ゴスペル、R&B、ソウル・ミュージック、モータウンやヒップホップ等を聴きながら育ったんだ。ベースを学んでいる子供として、いつも自然とベースラインの魅力に引き寄せられていたけど、歌詞やメロディを歌うことも大好きだった。大学に通うまではジャズに夢中になったり、ジャズのレコードを聴くこともなかったよ。

♪ 最初に手にした楽器もベースだったのですか？

そうだね、最初の楽器はベースだった。9 歳の時に父が与えてくれたんだ。それ以来ベースを弾くことを止めたことはないよ。最初のベースはアイバニーズの SR 400 で、初期のモデルのやつだった。

♪ アップライト・ベースを弾き始めたのはいつですか？

12 歳から 18 歳までハートフォード・コンサーバトリー・オブ・ミュージックのサマー・プログラムの生徒だったんだ。そこで、マーシャル・ブラウンとチューバとトロンボーンを学んで、同じ頃にジャズ・バンドでエレキ・ベースも弾いていたんだ。思い切ってジャズ科を専攻したのは 14 歳の時だったと思うけど、ベーシストで講師だったデヴィッド・サントロ先生が講師達のバンドで演奏しているのを見かけたんだ。アップライト・ベースのあるべきサウンドを聴いたのはその瞬間だった。すっかり打ちのめされて、家に帰ってから母に「アップライト・ベースを弾きたい！」って言ったんだよ。それで 4 年間サントロ先生とアップライト・ベースを勉強することになったんだ。

♪最初のレコーディングについて聞かせて下さい。

一番最初のレーベルでの公式のレコーディングは、名ドラマーでバンド・リーダーでもあるマイケル・カーヴィンのアルバムだった。その時は彼とブランフォード・マルサリスの新しいレーベル「マルサリス・ミュージック」でのレコードを録音したんだ。バンドはマイケルにカールトン・ホームズ（p）、マーカス・ストリックランド（sax）と自分だった。このような機会を与えてくれたマイケルとブランフォードには永遠に感謝しても感謝しきれないよ。

♪ 2011 年に同年 3 月 11 日に起こった東日本大震災の犠牲者を支援するための『がんばれ日本』というアルバムをリリースされましたが、どのような経緯で企画されたのですか？

2007 年にサイラス・チェスナットと最初に日本に訪れて以来、数年間度々日本に訪れていたし、日本が大好きで、豊かな歴史と文化、国そのものの気質も大好きなんだ。あの震災が起きた時は自宅に居て、フェンダー・ローズで『がんばれ日本』となったものを弾き始めたんだ。犠牲者の方々へのチャリティ基金としてリリースすることを決めたのはヴィーナス・レコードの原哲夫氏だった。勿論、自分は光栄だったし、支援の一部となることに喜びを感じたよ。日本とジャッキー・マクリーンを思いながらメロディを書いたんだけど、ジャッキーにはハートフォードで音楽を学んだんだ。ジャッキーはいつも日本を愛していて、日本で演奏することがどれだけ大好きだったかいつも話していたよ。だから、もし彼が日本でそれを演奏したらというようなサウンドをメロディにしたかったんだ。

♪ コネチカット州ハートフォードで生まれ育ったそうですが、ハートフォードの音楽シーンはどうでしたか？

ハートフォードは小さな街だけど、とても活気に満ちた文化と豊かな歴史があるんだ。50 年代と 60 年代に遡るとジャズの中心地だったんだよ。ニューヨークとボストンから等距離で、ちょうど 2 時間の距離だった。音楽を学ぶ上でハートフォードより良い場所を選ぶ必要はなかっただろうね。50 年代には、「ザ・サンダウン」というクラブがあって、自分の偉大な叔父でドラマーのウォルター・ボールデンがホレス・シルヴァーとジョーイ・キャロウェイとのトリオを率いていたんだ。

♪ 現在使用しているアップライト・ベースについて教えて下さい。

今は 2 本のアップライト・ベースを所有している。1 本は 1960 年代に製作されたケイ（Kay）というメーカーのベースで、2005 年から 2011 年にかけて数多くのアルバムのレコーディングで使っていたんだ。もう 1 本は今メインで使っているジュゼック（Juzek）の 7/8 サイズのベースだよ。弦は現在スピロコア（レイ・ブラウン）を使っているけど、ちょうど今新しいものを探しているところなんだ。

♪ ベースを弾き始めた頃に憧れたベーシストは誰でしたか？

9 歳の頃に最初にエレキ・ベースを弾き始めて、最初にベース

に夢中になった時にはジェームス・ジェマーソンとチャック・レイニーの 2 人を熱心に聴いていたよ。10 代になると、ルイス・ジョンソンやラリー・グラハム、ジョージ・ポーター Jr. が弾いているどんなレコードも聴いていたね。最初にジャズに熱を入れた時にはチャールス・ミンガスをよく聴いたよ。ベースを操って、自分の自由にして、音楽を人生のようにしたかった彼のやり方に夢中になったんだ。それから、ポール・チェンバースに数年間影響を受けた後、レイ・ブラウンを発見して、長い間レイ・ブラウンに夢中になった。最近は完全にサム・ジョーンズに夢中になっているよ！　彼はお気に入りの作曲家の 1 人でもあるんだ。

♪ 本誌のタイトルの由来でもあるベースマン、リロイ・ヴィネガーをどう思いますか？

リロイ・ヴィネガー、“ ザ・ウォーカー ” だね！　彼の演奏は大好きだよ。残念ながら、彼に会うことも彼の演奏を見る機会もなかったけど、彼の名前がクレジットされているレコードはたくさん持っているよ。リロイはベーシストのためのベーシストさ。

♪ アップライト・ベースを弾く上で一番大切なことは何ですか？

サポートすることがベースの役割なんだ。その意味は、音楽がどのように進行しても、ベースの役割はサポートしたり、たまに曲をリードしたりすることで、曲のサウンドが全てなんだ。現在は皆が技術的に素晴らしく、印象的なソロを欲しがっている状況で、それは素晴らしいことだけど、いい音色を出せていればの話だよね。

♪ 作曲はいつどのようにしているのですか？

普通はピアノで曲を書くんだけど、もしベース・ラインか繰り返されるフレーズが頭の中にあれば、それを最初に書いて、後でメロディを付け加えるんだ。作曲は 3 つのパートで構成されていて、最初のパートはインスピレーション、作曲中に自分のセンスに閃きがあり、自分自身を表現する必要を感じること。2 つ目のパートは試行錯誤と誤り、つまり、自分が伝たえようとしているメッセージを見つけ出すために何度も何度もたくさんのアイデアを書き記すこと。最後は披露すること。つまり、皆が好きか嫌いかを知るためで、それからまた作曲のためのアイデア・ノートに戻って、自分が書いたことを直したり調整したりすることに繋がるんだ。

♪ 現在のニューヨークのジャズ・シーンをどう思いますか？

そうだね、今もニューヨークのままって感じさ。思いつくままアップタウンやミッドタウン、ダウンタウンで素晴らしい音楽を聴くことができるよ。ニューヨークは世界中のジャズ・シーンの鏡の様で、もしニューヨークで何か起きれば、世界中でも何かが起きるという感じだよね。

♪ これまで日本の音楽や日本のミュージシャン、日本の楽器に影響を受けたことはありますか？

つい最近、ヴァイオリニストのメグ・オオクラ（大倉めぐみ）とジャズ・チェンバー・プロジェクトのレコーディングをしたばかりだよ。坂本龍一の音楽を演奏したんだけど、今ではすっかり彼の音楽のファンさ。最初に日本に来た時に「とうりゃんせ」を聴いたのを覚えているよ。今では「とうりゃんせ」と「赤とんぼ」が大好きだよ。

♪ 音楽以外の趣味はありますか？

自分は大のスポーツ・ファンなんだ。たくさんのスポーツをやって育ったけど、その中でも一番重要だったのが、フットボール、グレコ・ローマン（レスリング）、ベースボールと陸上競技だね。世界中で一番の私のお気に入りのフットボール・チームはニューヨーク・ジャイアンツさ。あと、自分はエクササイズも好きで、ジムでウェイト・リフティングをやっているんだ。年中旅をして回るミュージシャンにとって、エクササイズは重要だからね。

♪ ニュー・アルバムのレコーディングの予定はありますか？

はい！　近々バンドをスタジオに連れて行って、自分のオリジナル楽曲をいくつかレコーディングする機会を得たいと願っている。音楽的自由を与えてくれる良いレーベルをまさに探しているところなんだ。

♪ あなたにとって “ ベース ” とは何ですか？

ベースは人生そのものさ。ベース、そして、音楽は自分の生き方や生き様となっているたくさんのことをもたらせてくれているんだ。音楽とベースを大事にしていれば、音楽とベースも自分たちを大事にしてくれると思うよ。

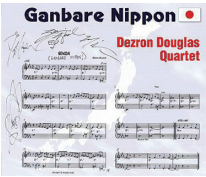
♪ あなたの夢やゴールは何ですか？

「スーパーボウル」で自分のカルテットでアメリカ国家を演奏したいんだ。そこで世界中の人々に自分が言わなければならないことや感謝の気持ちを聞いてもらいたい。あと、音楽を演奏しながら家族を養って、生活を維持していけるまともな暮らしがしたいね。

♪ 最後に『The Walker’ s』読者にメッセージをお願いします。

世界中にたくさんの悪意や否定的なことがテレビやインターネット等に映されて助長されているけど、人生において何が選ぶかは人それぞれなんだ。自分は音楽を真言とすること、誠実さや自分の魂が満ち溢れた生活を選び、相手にも敬意を持って接すること、そして、幸せと啓発を究極のゴールとして生きることを選んだ。もっとたくさんの人々が音楽や学問を学べば、世界中で人々が悪意を持つことがもっと少なくなるだろう。チームワーク、献身、愛、名誉といったものは世界中でもっと着眼されるべきテーマだと思うんだ。皆さんの愛と幸せを探し求める願いが叶い続けられますように。

Dezron Douglas official website : http://dezrondouglas.com/



がんばれ日本
Venus Records：VHCD-1064
2011 年 12 月 21 日発売

東日本大震災後、東北地方を支援するために発売された3曲入り作品

New Jazz Workshop: Underground
CD Baby：217375
2012 年 5 月 22 日発売

デズロンとルミー・スパンが中心となって結成されたバンドのアルバム

ウォーキン・マイ・ベイビー・バック・ホーム
Venus Records：VHCD-1080
2012 年 6 月 20 日発売

ナット・キング・コール・トリオのヒット曲を含む9曲収録の日本デビュー盤

ライブ・アット・スモールズ
Off Minor：OFM-034
2012 年 12 月 19 日発売

4人メンバーとニューヨークの「スモールズ」でライヴ録音した最新アルバム